

## 発掘調査の概要

### キトラ古墳の調査（飛鳥藤原第130次）

壁画の保存・修復と調査を目的とした仮設保護覆屋のなかで、2004年1月末から残余の墓道部の調査が始まりました。3月末までに墓道床面でコロのレール痕跡（道板痕跡）4条と穴2個を検出し、墓道奥で石室の前面部を露呈させました。石室は閉塞石（南壁）の西側が盗掘時に破壊されていて、人一人がようやく入れる盗掘孔があてていました。

そこからみた石室内の壁画は、息を飲むほどのものでした。躍動する四神、居並ぶ十二支像、天空の星々。それらは練達の画家ならではの筆づかいを今に伝え、飛鳥時代最高の芸術の一つとあって過言ではありません。

がしかし、壁面の漆喰は大きく剥がれ落ち、残された絵も風化と破壊の危機に直面しています。今後、石室内に流れ込んだ土を除去し、副葬品などを確認したのち、壁画の保存と修復が本格化します。

なすべきことは山積みです。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部 花谷 浩）



キトラ古墳墓道と石室



キトラ古墳壁画の十二支寅像（赤外線写真）